NIE実践報告

1．タイトル：新聞で道徳を考えよう

2．学校名

群馬県邑楽郡板倉町立北小学校

3．実践者名（代表者名）

渡辺祐希

4．学年

６年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳（生命尊重）・１９名

6．単元（本時の学習課題）名

命のリレー

7．目標(狙い)

人から人へ受け継がれる生命や死の重さを自覚し、よりよく生きようとする態度を育てる

8．評価の視点

今までの自分を振り返り、健康であることの幸せに気づき、命の重さを意識し、力強く生きようとする態度を養うことができたか。（表情・発言）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間指導計画で予定されていた、内容項目3－（1）生命尊重の授業と差し替えて行った。１時間授業。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1 これまでの日本国内の臓器移植の問題点をおさえさせる
2 海外移植の問題点を知る
3 脳死の定義や改正脳死移植法についてわかりやすく説明し、臓器移植を歓迎する意見に注目させる
4 家族の脳死を体験した校長の話を聞かせ、脳死に対する倫理的な問題意識をもたせる
5 意見交流「もし自分の家族が脳死状態になったら、死と思えますか。」
　※どちらが正しい考えであるかを問う発問や評価をしない
6 意見交流「自分が脳死になったら、臓器提供をしたいと思いますか。」
　※他人事でなく自分のこととして問題を捉えさせる
　※根拠を伴う考えになるようにさせる
7 教師の話（小学生の自殺記事の紹介・臓器提供意思カードの説明と配布）
　※問題意識を、よりよい実生活への意欲へ移行させるよう投げかける
　※臓器提供意思カードをファミリーフォーカスのきっかけにさせる

11．児童・生徒の反応、感想・意見

まず、国内の臓器提供の普及を願う気持ちが生まれた。その一方で、自分が臓器を提供する側になるという仮定で考えたことで、家族との命の結びつきや、それぞれの死生観にまで思いを巡らせることができた。難しい問題であったが、個々の児童が臓器提供の難しさや、その意味の重さについて考えることができた。

12．成果と課題

〇いまだ解決しない問題を新聞から取り上げて考えることで、自由な発想や建設的な意見の交流が実現した。
〇新聞を日常的に読むことで、児童が社会の事柄に興味をもち、学びの目を学校外にも向けることができた。
〇NIEの道徳では授業を一から組み立てるため、授業構成や発問計画を考える上で勉強になった。
●新聞記事から授業につなげる視点や構想の難しさ。
●発達段階に応じた新聞記事を見つける労力。